
2021 年度活動報告書

准教授 ホアン・カストロ

学内での活動

岐阜おおがきビエンナーレ

・岐阜おおがきビエンナーレ国際シンポジウムのディレクターを務めた。

期間：2021年、12月17日（金）-19日（日） 実施方法：オンライン形式

本ビエンナーレでは、「L I F — E !?」-部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」というテーマのもとにアート、哲学、化学、生物学、宇宙生物学からのアプローチを集結し、「生命らしさ」に対するモダニズム/ポストモダニズム思考を超えることを目指した。生命らしさをめぐる思考にふさわしい新たな用語と枠組みを探る試みは、現代のメディア・アートにおける質性、エージェンシー、パフォーマンスティビティ、アニメーションなどを通じて、生きていることが帯びている、新たな意味に焦点を当てることとなった。

授業

・芸術特論 C では、バイオテクノロジーとアート、生命らしい技術、スペース・アートの深い理解と、創造を促す授業をした。

・ライフエスノグラフィのプロジェクトでは、バイオ・アートの歴史だけではなく、今年はバイオアートがテーマであった岐阜おおがきビエンナーレについても深い理解と、創造を促す授業をした。

個人研究

・「プロトエイリアン・プロジェクト」

2018年から引き続き、久保田晃弘（多摩美術大学教授）、豊田太郎（東京大学准教授）と共に「プロトエイリアン・プロジェクト」の共同研究を行っている。

研究助成

・「ポスト・デジタル時代におけるウェットウェア・アート」科研費基盤研究 C（2018年 - 2021年）代表者

学外での活動

展覧会

- ・作品展示「2021年宇宙の旅_モノリス」

2021年2月17日～4月25日、GYRE GALLERY ギャラリー（東京）にて、プロトエイリアン・プロジェクトの研究成果、作品「FORMATA」を「2021年宇宙の旅_モノリス」の展覧会で公開。

- ・作品展示「LIVE IS OTHER」

2021年4月17日～6月25日、MAGAZIN 4 ギャラリー（ブレゲンツ、オーストリア）にて、プロトエイリアン・プロジェクトの研究成果、「Non-terrestrial material agency」を公開、展示。

その他社会活動など

- ・ALIFE 2021 ART AWARD

2021年7月19日（月）から23日（金）の5日間、オンラインでプラハ化学技術大学（チェコ共和国）「ALIFE 2021 人工生命国際会議」が開催され、私は組織委員会とアートコンペの審査員を務めた。